

研究機関名：東北大学

受付番号： 2014-1-633
研究課題名：北京型ならびに非北京型特異的抗体の臨床分離結核菌の Rv0679c 抗原に対する反応性の解析
研究期間 西暦 2015 年 1 月（倫理委員会承認後）～2016 年 3 月 31 日
対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 _____） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 _____） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（喀痰結核菌培養株 _____）
上記材料の採取期間 西暦 2012 年 1 月～西暦 2014 年 12 月
意義、目的 結核菌は、大きく北京型と非北京型に分けられる。北京型結核は、非北京型に比べて病原性が強いとされているが、その機序は明らかでない。近年、結核菌に含まれる LAM 抗原検査が AIDS 合併結核感染症の診断に、主にアフリカで用いられている。しかし、北京型と非北京型で LAM 抗原にどのような差があるのかは、まだ明らかでない。結核菌内において、LAM 抗原と Rv0679c 蛋白の結合性の違いがその差を生み出している可能性がある。今回、我々は、宮城県立循環器呼吸器病センターに保存されている喀痰結核菌培養株の分与を受け、Rv0679c 蛋白の解析を行う。
方法 宮城県立循環器呼吸器病センター検査室に保存されている喀痰結核菌培養株の分与を受け、菌株の Rv0679c 蛋白と LAM 抗原の抗原性を解析する。結核菌は、宮城県立循環器呼吸器病センター検査室内にて加熱滅菌し、感染性を失わせてから、東北大学感染病態学分野に輸送する。感染病態学分野では、菌株を SDS-PAGE することによって Rv0679c 蛋白と LAM 抗原の抗原性を解析し、北京型と非北京型で差があるか検討する。
問い合わせ・苦情等の窓口 東北大学医学部 6 号館 6 階 医学系研究科宮城地域医療支援寄附講座 宇佐美 修 Tel ; 022-274-5977 E-mail ; usami@med.tohoku.ac.jp もしくは、 東北大学医学部 1 号館 5 階 感染病態学分野 趙 景格 Tel ; 022-717-8220 E-mail ; zhaojingge1987@gmail.com